



紫

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

TOHO PROJECT FANBOOK PRESENTED BY KAGITSUKI

どう…かしら？

滅多に水着なんて着ないからわからないのだけど…

ん…どうしたの？

うふふ…それじゃあ泳ぎまじょうか？

ゆかりん
海へ行く!!

んもう…おちんぽこんなにおっきくしちやって…♡
鎮めない泳げないじゃない

それじゃあ…いただきまあ〜す♪





んっあああっ…あっ♡
やつあ…っもお…っ…らめよお♪
うみ…来たのに…あひっ♡♡
腰…ったたなきゅなっちや…んああっまた精液でてるっ♡

はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……
だめ……もう腰……たたないわ。

結局海に来て泳がなかったわね……
もう……やりすぎなのよお……バカ



紫

PRESENTED BY KAGITSUKI

VOL10

東方本を出して、ついに10冊目になります。
一応節目ってことで、ちょっと考えて作品をつくってみました。

中身なんですが、eratoYMの紫ルートを
自分なりに書いてみました。
今までの紫さんを愛てる本シリーズに繋げたい。
好きかって愛でて来たけど、こういう始まりだったんだよ。
という妄想というか。なんというか。
楽しんでいただければ幸いです。
てはまた、あとがきにて。

目次

巻頭カラー 3~6
ゆかりんと海にいこう


本編:紫 9~58

再録:紫エ…(すていえる分)61~70

あとがき:71

ゲスト:72~73

奥付:74



あなたとの出会いは…最低でしたわ

んん……
んん……

……？

どうして
わたしはこんなところに……？

なにをしていたのか
思い出せない……

力も使えない……か。

それにここは……？
どこかしら。

それにこの部屋……
まさか私が、ねえ……
こんなヘマをするなんて
霊夢に笑われてしまうわ。

雰囲気からして……
これはマズいかしらね

で、あなたが私を？

人間がこんなことして
……どうなっても
知らないわよ



く……くう……っ
馴れ馴れしく撫で回さないで
……くれるかしら

ハハハハ
ハハハハ

く……っ
その……穢らわしい手を……離せっ

ハハハハ
ハハハハ

ハハハハ
ハハハハ

ハハハハ
ハハハハ

ハハハハ
ハハハハ

ん……んう……っ
なんで……わたしが
こんな目に……

下着……脱がされて……？
……っそこは……っやめっ

んっ……や……っ
そんなところ
撫で回さないで……っ

ふ…ふん…っ
身動きとれない相手に
こんなこと…
はずかしくないのかしら

ちよ…ちよつと
なにをする気よ…っ

中…見られて…っ？
この…変態…っ

…っ
誰にも見せたことなんて
ないのに…っ
こんなことで
人に見られるなんて…

いいわ、この遊びに付き合っ
てあげるけれど覚えておいて。
わたしはそう簡単には…
あなたの思い通りにはならないわ

はあ…

なによ…
処女だったのが意外？
…嬉しいって
あなたに喜ばれても
嬉しくないわよ

そう、この時はまた
敵意しか…持ち得なかった

力も封じられて
抵抗も無意味…
なら選択肢なんて
ほかになかったわ



………?
いきなりなにを……



褒められるのは
やぶさかじゃないけれど
本当、あなたなにかしたいのよ……



この八雲紫ともあろう者が
こんな余興に
関わることになるなんてね
それで……なにをするのかしら

こうしてわたしとあなたの生活がはじまったわね

…変わってるわね
あなた

そんなに嫌なら
胸か…唇か選べ…って？

なにをする気よ…

触れるのは
構わないけれど

この選択が
わたしの最初の…
そして最後のミスだったわ

本当、なにを考えてるのかしら…

仕方ないわね…
付き合うってことだもの。
自由にしていいけれど
約束は守ってほしい

何をするのかと思えば
いきなり胸に
媚薬を塗りこみだすなんて
驚いたわ…
完全に油断してた。

ん…っ冷た…っ

初めて…なのに

こんな…っ

きゃっ!!



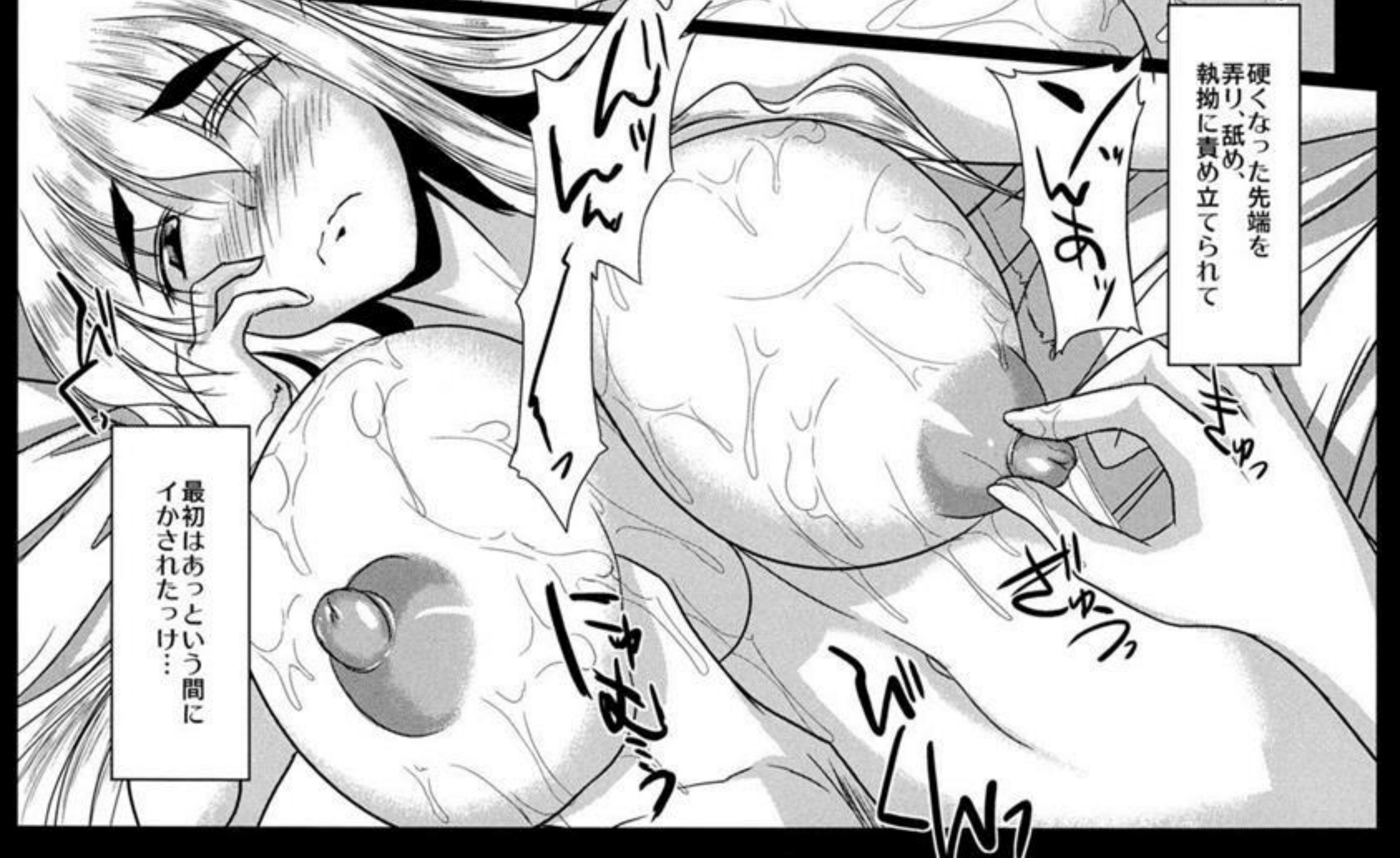


そこから
はもう
される
がまま

徹底的に
胸だけを
調教され
つつけたわ



硬くなった先端を
弄り、舐め、
執拗に責め立てられて



最初があつという間に
イカされたっけ…

胸に対するこだわりかしら…
ねちっこくて、
それでいて丁寧で、激しく…

ん…っあん…っ
今日も…胸…っ？

毎日毎日弄られ続けて
わたしの乳房は
一回り大きくなっただけれど、
薬のせいにて感度は増す一方、

あなたの舌や指で
弄られ続けた乳首は

大きく…敏感にされて
少し弄られただけで
電流が走ったかのように
わたしの身体を貫いたわ



気づいたときには
胸だけでイカされて
しまったようになっていたの
わだしも嫌ではなくなっていたの

おっぱいいいじられるだけで
お腹の奥が熱くなって…
疼いてきて…
もっど…もっどさわってほじろって…

執拗な調教に
少しずつ身体が
作り変えられていくのが
わかったわ…

あられもない声を…あけるように…
そしてわたしは…許してしまったの



紫さん
こっちのほうが好きなんて
変態だなあ

そ、そんなわけ……っ

だいぶほぐれて
きたねえ



あ……また
わたしのお尻……
開発されちゃうのね……

ね、ねえ
お願いだから
ゆっくり……いれて……っ



奥まて...っはいつてえ...っ
んあ...っぐく...っううっ
お尻...っえくられて...っ

そんなに声だして
お尻気持ちいいかい？

き...っ
きもちよく...んくっ
...なんか...っ
ない...んあ...っわっ

やめ...っ
そんな抜き差し
しない...んくっ

だめ...っ
気持ち...いい...っ
お尻なのに...っ
これじゃあ本当に...

この時が...
徹底的にやりぬく彼の調教で
わたしが快樂に
溺れてしまった時かしらね...
お尻が気持ちいい...
なんて...もう.....

何度イツても
あなたは
許してくれなかったわ

お尻に打ち込まれた
器具にたやすく
絶頂させられて

本当……
お尻で頭がどうにか
なりそうなくらい
だったのよ？

そんな考えがよぎってから
ある時…あなたは告げたわね

え…？

解放するって…
一体急にどういうこと？
状況が…よくわからないのだけど。

ふわ…？

ただ、期限が
来たただだよ。

期限？

あなた…
なにをいつているの？

力が…戻った？

けれど
君を誰かに汚されるのを…
見ていられない
なら、解放するしかないのでは？

ふん…
随分と…身勝手ね
ここまでわたしを
辱めておいて……っ

ある程度の状況報告は
必要だったんだ。
でも、きみを助けるためには
…いや、言い訳だな……

そう…
そういうことだったの。

……

力を戻したってことは
…ここであなたを
殺すこともできるのよ？

そうだな…
それが償いとなるなら。
本来なら、こんな感情を
抱いてはいけなかったよ…

ooooooooo!!

……冗談よ
今更あなたを
どうこう……って気はないから……

紫……さん

嫌っていたはずなのに……

あなたが……ね
激しくも優しく
傍にずっといてくれた
この数ヶ月で……

あなたのせいで
わたしの身体も心も……
あの頃とは変わってしまったわ。

わたしの想いは……
境界を越えてしまったの



溢れて…
とめられない…

今はただ一人の女として
貴方が…愛おしい。



好きって自覚したら

それなのに
いきなり…
離れるなんて
出来ないわ



わたしを
好いてくれて
いるのなら
一緒に…

あなたなら きっと
手を取ってくれるって信じていたわ

手を握り返されたとき どれだけ嬉しかったことか…

わたしと あなたなら 境界を越えて…一つになれる

知っ



そして、私は
彼をつれて、幻想郷へと戻った。



ずっと あなたと 一緒に……



……あら？

あら、気がついたかしら？
長いこと
気を失っているから
心配したわ

ん……ん
ここは……？

ワネ

そうか
僕は本当に……

ここが……

わたしのいた世界よ……

幻想郷……

ねえ…
お願いがあるの

だから今…
生をかけて守ってくれた
私の純潔を
愛しいあなたに捧げたい…

日常に戻ってしまえば
色々忙しくなるわ

私の初めて…
あなたがもらって…
くだらない？

もう…今まで
何度も見てきたてしよう？

紫さん…綺麗だ

こうやってじっと見られると
恥ずかしい…わね

やだ…
もうドキドキが…
止まらない…

…あん…っ
ちよっと目が怖いわよ

きゅん きゅん



会ったときから
大きかったけど
…これはもう…凶器だね。

あなたが
毎日飽きもせずに
揉むからじゃない

わたしたって好きに
ん…っあ…っ…



だつてこんなに
柔らかくて
気持ちいいんだよ…？
飽きるわけないじゃない

にゃっ

んんん



んあっ
んあっ
あっ…ふあっ…
もん…話してる途中…
もう…

んんん

んんん

んんん



そんな夢中になるなんて



あなた好みの…
おっぱいにかしら…?
なっただのかしら…?

そんな
あ…っんっ
舐められたらあ

乳首で…っ
イ…っく…っ

あ…っんっ
あ…っんっ

あ…っんっ

あ…っんっ

あ…っんっ

あ…っんっ

も…もう
夢中
なりすぎよ…っ

あ…っんっ

あ…っんっ

あ…っんっ

あ…っんっ

あ…っんっ

でも…
それだけよろこんで
もらえたってことかしら



ねえ…あなた
わたし…もううずいて…
仕方ないの…っ

恥ずかしいけど
あなたに見て…
いえ、触って欲しくて
たまらない



その…今度は
優しくお願いね

あ…っあ…っ
いきなり舐め…っ
んあ…っ



や...っ
そこばかり...っ
なめまわしちや...っ
はっああ...っ

あなたの舌...すごくいい...
舐められるたびに
とろけていきそうよお



ど...どうしたの?

.....?



だめだ...紫さんが可愛すぎて
もう我慢できないよ
もう...いい?



...あ...すごくいおっきく...なってる



その…
あなたばかりじゃなくて
私にもさせてくれる？

…えっ？
ちよ…っ 紫さんっ

してあげたいの…
ダメ？



もう…
いじわるなんだから
こう…かしら？

すごい…
こんなにも大きくて熱い…



う…お…紫さんの
…ん…好きにお願い…っ



なら…
どうすればいいのから
教えてくださるかしら？

そ、
そんなことはないけどっ



気持ちよかったの？
…それなら
びっくりさせないでよ…
もう…

ん…ごめん

ああ♡



あ、その…唇が
柔らかくて
気持ちよかった…だけです

な、なにっ？

ドキ
キ



口…でもするのよね…

ぺい

しゃ♡



唾えれば…もっと
気持ちよく
できるのかしら

あ
あ



あ

あ



それじゃ続きね
もっと…
気持ちよくなってるね

おちゃんちん…熱い
舌…やけどしそうだわ…

あ
あ

んん…っ
大きすぎ…っ
口の中いっぱいになって…っ

さきつぼから
おつゆ溢れで
舌に絡みついて…

びくびくしてる…
いなかんじて
いのかしら…?

なんてかしら
す…おいらの…

紫さん…
だめっ止めっ



止められない...っ
おひる...おいしいっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

え...なんでとめるの...?
その...
気持ちよくなかった?

やば...いい...っ
ストップ...っ
うあ...っ...あ...紫...っ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

いやその...
すごく
気持ちよかったんだけど

ああ...ついにこの時が...

う...あ...

うん...
わたしも
あなたと一つになりたい...っ

紫さんの中でもいきたい
...一つになりたいんだい



うん…来て…
私の中、
奥の奥まで…

紫さん…いくよ

あなたが
中に入
ってきた…るっ



いッ痛っ…っ
ああっあ…っ！

あつあつ

あつあつ

紫さん…
奥まで入ったよ…
わかる？

く…ううっ
わかるわ…
あなたと
一つになってる…っ

あは…っ
大丈夫…って
言いたいけれど

…大丈夫？

想像以上…ね

だから
嬉しいくらい

でもあなたと
やっとなつたの

大丈夫だから…
動いて…？





少しヒリヒリ
するけど……っ
だいじょうぶ……っ

ん……く……っ
ああ……っんっ
っ……っうあ……んっ

それに優しくして
くれるから……っ
んっあ……っんうっ
気持ち……いいよあ



ひっあっ
なに……っ急にっ
激しくっ

紫さんが可愛すぎてもう……

あーっ

あーっ

あつ……ん
かわい……ん
理……由……い……つて
んあつあつだめえっ

おちんちんに
突かれるたびに
ビリビリつけてきてえ

これ……っ
病み付きに
なっちゃうそう……っ
♡♡♡





一つになるって
すごい...のね...

身体のほうは
大丈夫...?

わたしの中...
あなたの...
いっばいよ

ええ...大丈夫よ



紫さん
これから...
よろしくね

ん...

こちらこそ
これからも
よろしくお願ひしますわ
あなた ♪

本当
こんなに色々と
あったのは
いつ以来だったかしらね
自分でも
思い出せないくらい
思ったより
私も若いわね…

ハッ

ん？
どうかしたの？
紫さん

あんな出会いだったのに、
不思議ねえって。

あ…ははは

昔のこと…
あなたと
出会った時のこと
思い出していたのよ

そして今
あなたの子どもが
この中にいる…



あの時の自分に
言っても
信じないでしょうね

あなたと結ばれて
こうして子どもも授かって



霊夢たちには
笑われたりしたけど、
祝ってもらえて



皆と
穏やかな日々を
過ごしてる…



こんな結末が
待っているなんてね

ほんとは
不意に



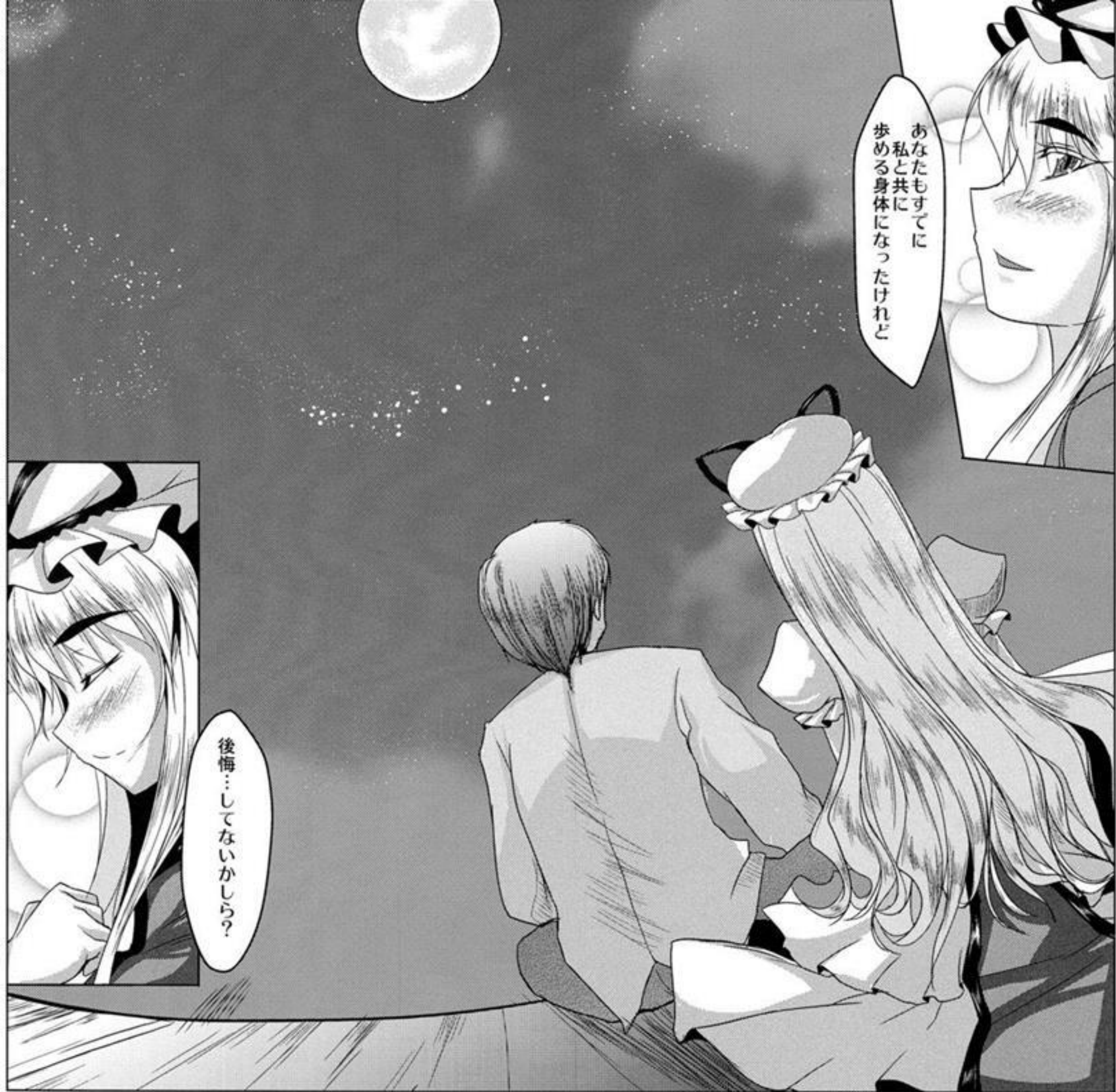
笑い事じゃないけど
さすがに…覚悟したよ。

目覚めた瞬間
なめたよ(笑)

でも、ふふっ
藍を説得するのは
大変だったわね。
あなた殺されそうになったし。

あんなに
見えたよ

フフ



あなたもすでに
私と共に
歩める身体になっただけだと

後悔…してないかしら？



私も…
精一杯…あなたを愛していくわ。

だから…
離れたら嫌よ…？

離れるなんて考えられないさ
それこそ
みんなが呆れるくらい
らぶらぶになろうじゃないか

それならね…
わたし もっと
子供…欲しいわ

もう少し二人だけが
よかったんだけど

ぎゃっ

でも
目に見える力たちも
大事…じゃない?

もうあなたったら…

もしかして
紫さん…えっちしたい?

ふふ
どうかしらね

そんなはくらかしても
すぐにばれるんだからさ

んもう
今はだめ…ってっ
ん…つ…ん…ん…

そうしたら
目一杯…楽しみましょう？

この子が産まれてから…ね
それまでは…私も我慢する

ねえ…あなた
わたし今…とても幸せよ

願わくば…この幸せがいつまでも続きますように…



後書き

おつかれさまでした。すていえるです。
こんにちわ、はじめまして。

総ページ数・フルカラー口絵、表紙箔押しなどなど、やりたいことつめたら
大変なことになっていた。大ばか者です。

既刊の流れにどうにかして繋げたいと思ったのですが、見事に最後妊娠させてしまった。
…いやそのこづくりっていいよね。こうね。
てことで、流れ的には本編終盤部分まで→既刊→ラストっていう時系列でお願いしますw。

今回は液タブで原稿をはじめて仕上げました。
最初は板タブではじめていましたので、ペン入れ途中から液タブになり
描きかたになれるまでに時間がかかったりしました。
今回描ききったことで、少しは慣れていくといいのですけれども。

今後は紅樓夢、サンシャインクリエイション、そして冬コミとなります。
紅樓夢は、珍しくレミア本とか予定しちゃったり。
冬は…なんだろうね。えーきさまか、紫のコス本とか…やりたいかな。

しかし10月からのゲームラッシュにぼくは耐えられるのだろうか…っ

みんなー、BFしようぜー！エスコンでもいいよ！

ゲスト原稿を快く受けてくださった、ソロノ・ワ・ソロさん、タケユウさん。ありがとうございました。
今度なにかお返してきるといいな…っとおもいます！

ところで、原稿をね。3月の例大祭原稿直後から描き始めた割りにここまでかかってしまった。

ROのせいなんですけども。オンラインゲームですね。
ほとんど方が知っていると思うのですがそのあたりを少し。

修羅:ウォーロック、メカニック、ミンストレルと三次4キャラ育成してしましまして。
いまでも、プレイ中です。まったくのゼロから始めたのに、どうしてこんなことに。
いやはや学生時代に就職活動をぶちぎってまでプレイしてたころを思い出してしまいました。
だけど、さすがに原稿を投げてまではプレイしなかったのは自分をほめたい。ほめたい。

原稿終わったらまた、修羅のレベルあげをしたいとおもいますwまだまだ110ですしね！

…そういえばTERAのパッケージも届きましたし、
プレイされるかたはどこかでお会いできるかもしれませんね。
(キャラクター名は基本、すていえるです。スティとかすていとスッティとか！)

おっとそろそろスペースもなくなってまいりました。ゲームの話をするときりがないね
こんなページ数で作品を出すことは総集編以外今後は無いと思います。
さすがにちょっとやりすぎた気もしますが、自分では楽しめたのでヨシとします。

ではまたいずれ。どこかの本でお会いできることを祈りつつとさせていただきます。

2011.7.31. 

次ページからは
昨年のサンクリでAとしさんと合同本を
作ったときの紫マンガの再録になります。

発行から一年近くなるので、
丁度いいころあいかなと思いましたので。

これは、紅樓夢から2週間も無く
急ピッチで仕上げたものなので
今見ると、結構雑なつくりだなあと
反省しきりです。。。
やっぱ一月は欲しいですね`q`

・w・)っそれではどうぞー
Aとしさんパートはありませんので
あしからず、っと。



紫
紅樓夢
紫工...
99
初出

で、なにかは
言いかは
あるのかしら？

うあっ

わたしの所に来ないで
どこにいつていたのかしら...
あなたその...チ...ちんぽは

ねっ

ちんぽ

こんな
脚で踏まれてるだけ
しちやうのに...





こんなガチガチにしちゃってなんてでもいいんでしょ？ 気持ちよければ…っ っ

もうイキそうじゃないこの節操なしのチンポは！

ふ…うあ…っ おおうっ



うう…うああ…



やだ…クセになりそ

あらあら… 精液ひゆくびゆく 出しちやって… っ そんなに脚がかしら？



次は直接
飲ませて...ん...っ

もん...っ
もっ...っ
いたい...ないわねえ



んー...っ
このおいし...っ
この大きさ...この堅さ...
久しぶりのおちんぼ
じつくりの味
味わわせて
もらいますからね

まったく...

一月以上も来ないなんて
...ん...ちゅっ
許さない...ん...だから

あ...っうあ...っ

一月も...ん

一体どこの誰に
ご執心だったのかしら?

まあ...

わたしが一番なら...どこの誰としていてもいいのだけれど...





ん……
…ねえ、まさか
もう他の娘に
射精してきたのかしら？

うええ？

それはさつき
紫さんが脚て……

聞く耳もたないわ。
こうなったら……
こうするしかないわ……ね

濃さが足りないわよ……？
いつもならもつと
喉に絡みつくかんじなのに。

……っ！
っ……ああっあああ！



すごいわ：
もう2度も出したのに

さっきより
大きくなってるわよ
それに すごい脈打ってる…

ほら 軽く握っただけで
びゅくびゅく精液出しちゃって
まだまだ玉袋に
たくさん入ってそうねえ…



な…あっ
なにをしたんです
紫さん…っ
うあっあっ

うふ：
境界をいじってね
射精の限界をの
外してあげたの

ん…すごい量…んんっ

わたしが本気になったら
どうなるか教えてあげるわ

紫

奥付

■誌名
紫

(限月:10冊目)

■サークル
限月

■発行日
二〇一一年八月十三日
コミックマーケット80

■発行者
すていえる

■印刷所
アクシス出版株式会社様

■メールアドレス
taoyaka3@nifty.com

■ホームページ
<http://pixiv.cc/stiel/>

■PixivID
773856

■すていっかむ
stieltaoyaka

■ついったー
stiel_